＜様式＞

学校名	山形市立第八中学校 山形市村木沢字河原田 1620 番地の２ TEL　023－643－2241 FAX　023－645－8496	校　長	畔上　　大
		研究主任	高橋　永子

研究主題	「自立した学習者」を育てるために（４年次） ～自分の可能性を広げる学びへの挑戦～
研究主題設定の理由	本校は「創造・貢献・自立　～地域と繋がり、新しい時代を拓くたくましい生徒を育てる学校～」を教育目標に掲げ、「自ら学び、考え、表現できる生徒　自他のいのちを敬い、地域に貢献できる生徒　向上心にあふれ、主体的に行動できる生徒」を目指して、教育活動を行っている。その目指すところは、文部科学省中央教育審議会の答申（令和３年１月）、「『令和の日本型教育』の構築を目指して　～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」にある理念に通じている。 先の答申では急激に変化する時代の中で、先行き不透明な「予測困難な時代」にたくましく生きていくために、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが必要」としている。 本校の生徒は、明るく素直で、与えられた場面・状況において一生懸命取り組むことができる。一方で、課題を見つけたり、改善方法を考えたりする力は、十分に身に付いているとは言いがたい現状であった。そこで、生徒一人一人を「自立した学習者」に育てることを目指した教育実践を通し、豊かな人生を切り拓くことのできる生徒を育てたいと考え、本主題を設定した。 これまでの３年間の取り組みによって、授業の中で非認知能力を高めることを意識した授業づくりを目指してきた。令和７年度のアンケートでは、生徒自らが自身の学習状況や、学習に向かう姿勢を振り返り、「見通す力」「やり抜く力」「コミュニケーション力」を伸ばそうと取り組み、「自己肯定感」「向上心」「協調性」がぐんと伸びる結果となった。 ４年次は、現状に沿った単元全体をデザインし、教師と生徒で共有してひとり一人が自分の可能性を広げる学びへの挑戦ができる授業づくり・システムづくりをすすめたい。
研究の目標	以下に示す生徒の育成を目指し、研究を進める。 １　単元全体や本時で学習することは何かを把握し、どのような方法を用いればその課題を達成することができるのかを考え、見通しをもつことができる生徒。 ２　自分で立てた計画や方法に沿って、粘り強く課題に取り組むことができる生徒。 ３　取り組みの結果、課題を達成できたのかどうか、また自分の取り組み方は課題達成に向いていたのかどうかを振り返り、成果と課題を明確にした上で、次の学習課題に生かすことができる生徒。

研究の内容	1　「学びの輪」を活用した単元構想 （1）視覚化 「見通し」「行動」「振り返り」の３つの過程を意識させるために図に表し、教室掲示する。 （2）生徒と共有 授業者のみならず、生徒も「学びの輪」のサイクルを回せるように意識した単元全体の構想をデザインする。 （3）単元を貫く課題設定 その単元でつけたい力を生徒が見通すことができる時間、個別最適な学び・協働的な学びを意識した学習活動を十分に行うための時間、振り返りを生かし次の単元につなげる時間の設定ができるよう、単元計画を工夫し、「学びの輪」を回せるようにする授業での活用 2　各教科における目指す姿を具体化する 「自立した学習者」の姿とはどのような姿なのかを、教科ごとに明確にする。また「見通す」「行動する」「振り返る」の３つの場面、それぞれにおいても、目指すべき姿を具体的に示し、生徒と共有する。 3　フォーサイト手帳の活用と学び方の選択 （1）単元テストの日程をフォーサイトに記入し、いつ、何を、どのように勉強するのかの見通しを持たせる。 （2）終わりの会で、フォーサイト手帳を記入する時間を設定し、その日の見通しを持たせる。 （3）単元テストや学習課題への取り組みを振り返り、ひとり一人がより良い学びを選択して、自分の可能性を広げる学びに挑戦できるようにする。
研究の方法	1　全職員の共通理解のもと、研究を進める。研究推進委員会を中心として提案し、職員ミーティング（八中カフェ）を行う。小規模校だからこその強みを生かし、生徒の実態や研究の目標について語り合う場を定期的に設定する。 2　外部講師を招いての研修会を行い、研究に対する学びを深める。 3　年２回の授業研究会を行い、事前研・事後研を通し、研究の深化を図る。 4　生徒に学習と非認知能力（S2）に関するアンケートを行い、研究の成果と課題を客観的に把握し、授業改善に役立てる。
研究の計画	４月　研究方針の確認 ５月　重点単元の決定・単元構想の作成 ６月　第１回　校内授業研究会 ９月　第２回　校内授業研究会、研修会（外部講師を招いて） ９～１１月　一人一授業の実施 １１月　学習と非認知能力（S2）に関するアンケート １２～３月　今年度の成果と課題の確認、次年度の研究の方向確認、研究集録作成